

# 多言語教育実践ジャーナル投稿規定

概要：センター内の言語科目における実践報告を年1回出版

## I. 投稿資格

1. 執筆者は（共著の場合はファーストオーサーのみ）、原則として現職の外国語教育研究センター所属教員とする。特別号、特集号などの場合はこの限りではない。
2. 投稿論文はそのカテゴリーを問わず1教員につき1本までとする（共著による論文も1本と数える）。ただし、投稿論文数によっては、ジャーナル&リサーチ委員会による決定を経て掲載号・論文枚数等の調整を受ける場合がある。
3. 投稿論文は過去に出版されておらず、他のジャーナルに現在投稿されているものではないこと。

## II. 使用言語

原稿執筆にあたっては、センターに所属する教員が広く互いの教育実践及び知識の共有を活性化するにあたり、センター言語科目群に属する日本語、朝鮮語、中国語、フランス語、ドイツ語、スペイン語及び英語での投稿を認める。

## III. 執筆要項

投稿原稿は未公版のものに限る。

1. 原稿の種類は下記の区分に属するものとする。  
授業実践報告：外国語教育研究センター内における言語科目全般における授業実践の報告及び所感や、タスクやアクティビティ等、授業における体験や経験に基づいた報告を行う。可能であれば実践に関連する理論的枠組みと関連づけること。
2. 書式は以下の項目全てをできる限り厳守すること。
  - (1) 原稿サイズ  
A4版を使用し、上下各19mm、左右各16mmずつあける。  
42字×43行、横書きで、フォントはMS明朝、12ポイントを使用。
  - (2) 字数  
授業実践報告：6000-8000字程度  
図表、参考資料、参考文献、注、Appendixなど全て含める。なお、図表については、明瞭なものを当該箇所へ貼りつける。貼り付けられない場合は、別ファイルを用意し、挿入箇所を明示する。
  - (3) 原稿タイトル  
18ポイントでセンタリングし、各文字を太字にしたスタイルに従う。フォントは上記書式に従う。
  - (4) 氏名  
右寄せ、ゴシック体で12ポイントとする。タイトルとの間は1行あける。
  - (5) 要旨  
全ての原稿に、要旨と3～5項目のキーワードをつけること。要旨は500字程度で執筆すること。書式は、左右15mmずつ全行インデントし、フォントはMS明朝、11ポイントを使用する。尚要旨の言語は執筆言語に関わらず英語あるいは日本語とする。
  - (6) 本文への註釈は、対応する註記を各ページの下に9ポイントで表記する。

## IV. 原稿の提出

原稿の提出は、指定のGoogleフォームに必要な事項を入力の上、投稿内容を収めた電子媒体をアップロードし、送信すること。

## V. 脚注および参考文献の形式

原則的に APA (第7版) スタイルを用いること。英語以外の言語に関しては、APA (第7版) にできる限り準拠し執筆者の責任において同一論文の中で齟齬のないよう確認すること。

## VI. 投稿開始及び締切日

投稿の受付は毎年9月秋学期の開始から行う。初稿の提出締め切り日は11月末日とする。

## VII. 査読に関して

当該ジャーナルへの投稿に対する査読は行わない。ただし基本的な内容及び体裁のチェックをジャーナル&リサーチ委員会が行い、掲載可否を判断する。

## VIII. 校正及び再提出

内容及び体裁のチェック後、当該ジャーナルのスコープから著しく逸脱する内容や体裁に問題がある場合、投稿者に対し校正及び再提出の依頼を行う。校正依頼を受けた執筆者は、原稿の校正を行い、校正依頼を受けた日から起算して2週間以内に再提出を行うものとする。校正後の原稿はジャーナル&リサーチ委員会による最終確認を経て掲載可否の判断を行うものとし、執筆者に結果を通知する。なお出版社より体裁等の追加の修正依頼があった場合は、再度の校正を執筆者に依頼する場合がある。

## IX. 出版

当該ジャーナルは毎年3月に出版される。

## X. CiNii 及び立教リポジトリへの登録

掲載された論文は、立教大学を通して CiNii (国立情報学研究所論文情報ナビゲーター [サイニイ]) 及び立教大学学術リポジトリに登録される。

## XI. その他の要件

1. 原稿料は支払わない。
2. 掲載された論文の著作権は、原則として立教大学外国語教育研究センターに帰属する。ただし、著者が著者自身の研究・教育活動に使用する際は、許可なく使用することができるものとする。
3. 万が一出版後、剽窃等の不正が発覚した場合は当該論文をジャーナルから削除する。